

レイナルド・C. イレート 『キリスト受難詩と革命ー 1840～1910年のフィリピン民衆運動』

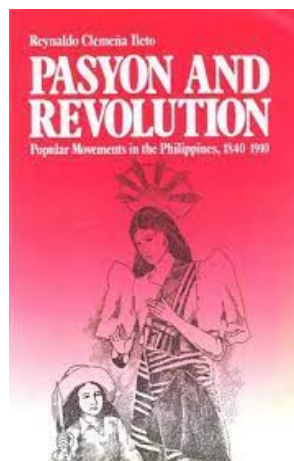
芹澤隆道

『キリスト受難詩と革命』は、スペイン植民地支配に対する蜂起として始まったフィリピン革命（1896年）から、米西戦争（1898年）に勝利し、新たにフィリピンを植民地化したアメリカ合衆国に敗北するまでの一連の抵抗運動を、当時膾炙していたキリストの受難を描いたタガログ語の歌や詩を用いることによって、民衆の視点から描いている。この失敗した革命は、フィリピン史の中で葬り去られたわけではなく、その後現れた社会変革を実現しようするリーダーや抵抗グループの間で＜未完の革命＞論として受け継がれてきた。原著が刊行されたのは1979年であり、イレート自身、反マルコス運動や反ベトナム戦争運動に関わりながら執筆していた。邦訳が刊行された2005年には、アメリカ合衆国が仕掛けたイラク戦争が泥沼化しており、新たに設けられた日本語版序文の中でイレートは、アメリカ帝国主義に対する「底辺から」の抵抗書として日本の読者に読まれることを期待している。



出典:

- レイナルド・C. イレート 『キリスト受難詩と革命－1840～1910年のフィリピンにおける民衆運動』（邦訳：清水展・永野善子監修、川田牧人・宮脇聡史・高野邦夫共訳、法政大学出版局、2005年）



出典:

- Reynaldo C. Ileto, *Pasyon and Revolution: Popular Movements in the Philippines, 1840-1910* (Quezon City: Ateneo de Manila University Press, 1979)

関連リンク

- 2012 Special Academic Convocation - Reynaldo Ileto <https://www.youtube.com/watch?v=X7NwcNSAP9M>